

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

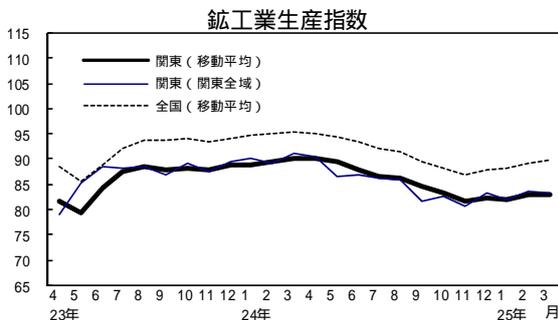
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 2 月)	今回 (平成 25 年 5 月)	
景況判断	下げ止まっている	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	大幅に増加	
雇用情勢	弱含み	改善の動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

1～3月期には、輸送機械は、震災復興と輸出向けに普通トラックの需要が伸びたことと、普通乗用車の米国向け輸出が堅調であったことから増加した。一般機械は、半導体製造装置の生産の落ち込みが主因となり減少した。電気機械は、主に電力会社と鉄道会社向けに開閉制御装置が生産増となり増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	15.2	3.2	4.8	2.1	0.3	0.3
化学	13.4	1.6	-	2.4	1.5	-
一般機械	13.2	8.1	3.4	9.4	3.0	1.9
電気機械	7.8	5.2	7.2	5.1	6.3	1.1
食料品・たばこ	7.1	1.0	-	2.0	1.8	-
鉱工業	100.0	2.8	1.0	1.6	1.7	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

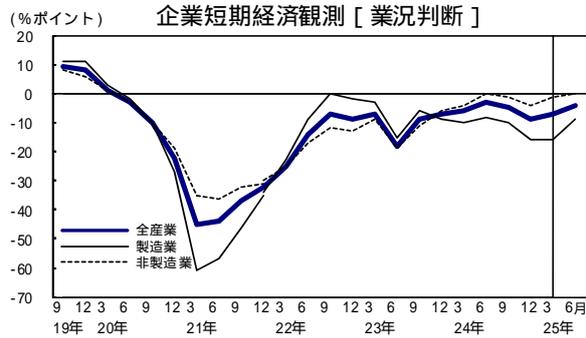
2. 1～3月期、3月は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。

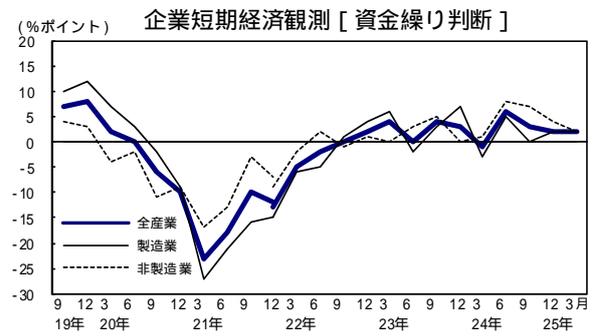
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

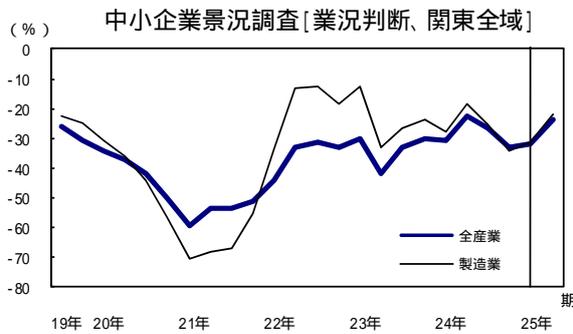
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年6月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。

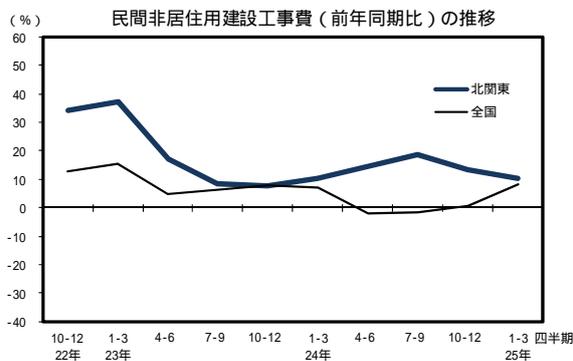


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「大手自動車メーカーからの受注量は、3か月前の見通しと比べてやや上振れしている。5、6月分をある程度4月に前倒しにすることから量が増えてきている(輸送用機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績見込み	25年度計画
全産業	4.2(2.8)	2.8
製造業	6.6(4.3)	5.1
非製造業	0.9(0.4)	1.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。

(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.9%減、2月は同2.0%増、3月は同0.1%増となった。

大型小売店販売額

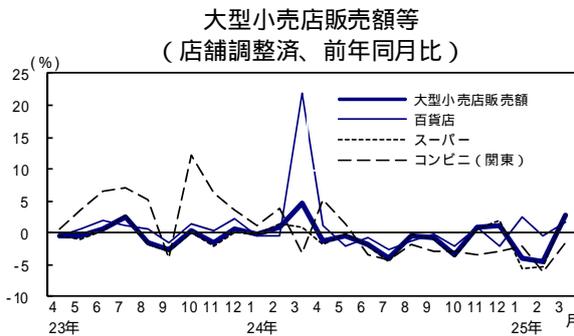
百貨店は、1月は、降雪等の影響から「婦人・子供服・洋品」等が不調だったが、初売りが活況だったことから前年を上回った。2月は、高級時計、バック、アクセサリ等が好調だったものの、衣料品が全般的に不調であったことにより、前年を下回った。3月は、春物衣料が好調であったことに加え、宝飾品、高級時計等も好調であったため前年を上回った。

スーパーは、1月、2月と2ヶ月連続で飲料品と衣料品が不調であったことにより、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

北関東地域の家計動向関連DIは、53.4となり前月より0.4ポイント低下した。

「3か月前と比較すると、販売台数が半減している (乗用車販売店)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

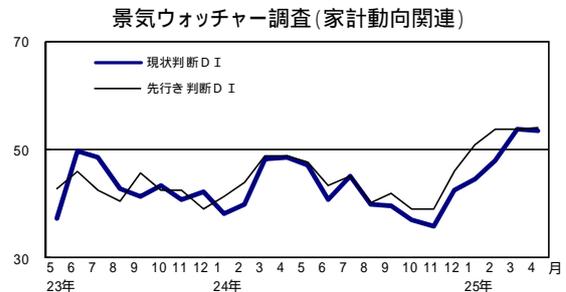
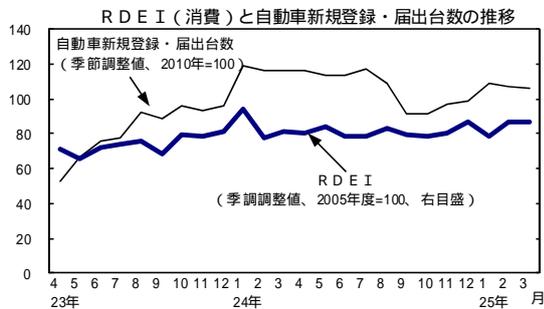


	25年1-3月	25年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.6	1.9	2.0	0.1
大型小売店 (*2)	1.9	3.9	4.5	2.7
百貨店 (*2)	1.4	2.6	0.6	1.7
スーパー (*2)	2.7	5.5	5.3	2.9
コンビニ (*2)	3.1	2.0	6.1	1.5
乗用車 (*3)	8.7	5.8	9.3	10.0
(季節調整値) (*3)	12.6	10.9	1.7	1.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整済、前年同期(月)比 (%)、コンビニは、関東全域

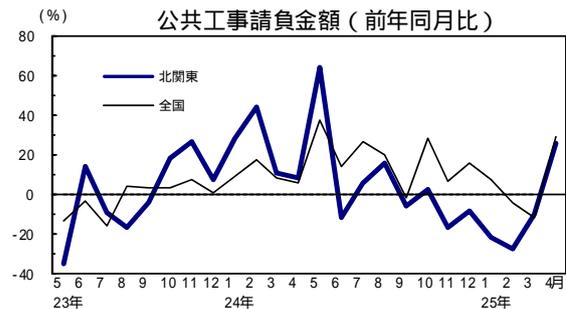
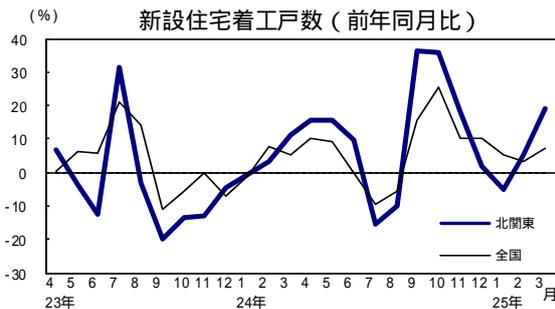
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は24年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

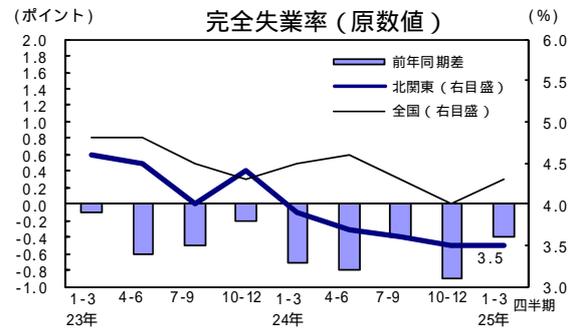
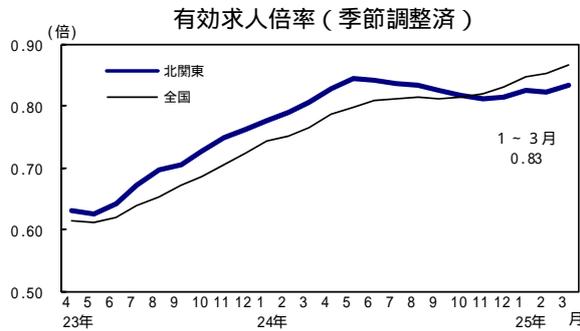


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

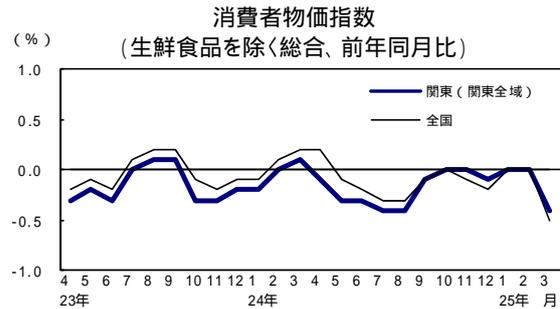
「歓送迎会、花見などが活況を呈している (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年4-6月	7-9月	10-12月	25年1-3月	25年4月
倒産件数	158	151	148	149	46
(前年比)	14.6	3.4	5.1	6.3	9.8
負債総額	502	280	278	423	113
(前年比)	34.0	94.0	72.6	6.8	47.7



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・まだ会社関係での宴会はゼロに等しいが、個人、家族での客は多少増えている (一般レストラン)。

<先行き>

・中国向け油圧建機の仕事でスポット受注が入ってきている。そのほかの分野についても、仕事量が減るとの情報が入っていない (一般機械器具製造業)。

